

3 福建省などにおける米國策動説

702 昭和8年2月10日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

中国に対する米國の小麦借款交渉および米國
製航空機輸出などに関し在中国米國參事官の
内話について

上海 2月10日後発
本省 2月10日後着

第八八號(極秘扱)

支那側ハ米露兩國ノ援助ヲ事毎ニ宣傳シ居ルコト御承知ノ
通ニシテ昨年十一月頃ヨリ米支間ニ飛行場設置ヲ條件トス
ル飛行機五百臺提供ノ借款又ハ數千萬金弗ノ武器借款締結
セラレタリ等ノ報道傳ヘラレ引續キ各方面ニ確メ居タル處
右等ハ大部分支那側ノ放送ニ過キスト認メラルル筋アリシ
カ(客臘末「ドルフマン」モ須磨ニ對シ米國ハ國內財界ノ狀
況及其ノ利廻カ高キ點ヨリスルモ今頃不安ナル支那ニ巨額
ノ借款ヲ爲スカ如キハ不可能ナリト内話セリ)南京出張中
ノ須磨ニ對シ米國參事官「ベック」ハ七日極秘ノ含ヲ以テ

左ノ通内話シタル趣ナリ

一、米國西部地方ノ過剰小麦賣却ノ爲一九三一年九月成立ノ
借款同様ノ方法ヲ以テF、I、A、及「グレーン」、スタ
ビリゼイション、ボード」等カ支那財政部實業部及鐵道
部相手ニ前同ノ約三倍ノ借款ヲ成立セシメント商議中ナ
リシカ

支那麥粉商人ノ反對ニ依リ今ノ處頓挫中ナルモ米國トシ
テハ小麦ノ此ノ上ノ値下リヲ防カン爲支那側商人ノ反對
ヲ除ク様更ニ支那側ニ有利ナル條件ニ改訂方考慮中ナレ
ハ或ハ成立スルコトモ成ルヘキカ鐵道部ハ右借款ニ依
リ融通シ得ヘキ資金ハ之ヲ鐵道敷設ニ充テントスル計畫
ナルモノノ如キカ故ニ之ヲ以テ武器ヲ購入セントスルカ
如ク傳ヘラルルハ事實ニ非ス(「ベ」ハ本件ハ實業家ニ於
テ折衝中ナリト念ヲ押シ居タルモ實ハ「ベ」自身相當之
ニ干與シ居ルモノノ如ク認メラル)

二、杭州飛行機學校ニ米人教官十六名雇ハレタルモ右ハ全然
個々別々ニ私的契約ヲ結ヒタルモノニテ國務省ハ全然關
知セサリシ處ナリ他ニハ軍政海軍兩部共ニ米人顧問無シ
三、米國飛行機購入ニ關スル說隨分アルモ客年初頭以來自分

ノ知ル處ニテハ「ダグラス」機二十臺支那ニ輸入セラレ
タルノミナリ最近ハ伊國飛行機カ米國製品ヨリ二三割方
安値ニ輸入セララルノ外中古ノ英國機等ノ輸入モアル由
ニテ米國物ハ動カサル次第ナリ

四、其他ノ武器ノ輸入ニ對シテモ種々ノ報道アル様ナレトモ
元來外國政府ヨリスル武器ノ購入ハ一切國務省當該係機
關ヲ通シテ詮議スル次第ナレハ自分ノ承知セサル對支武
器輸入カアリ得ヘキ筈無キ處客年初頭以來自分ノ取扱ヒ
タルモノ無シ

「ベ」ハ更ニ最近支那側カ兎角アリモセヌ米國ノ援助ヲ見
セ掛ケントスル風アルハ顯著ナル處之カ爲日米間ノ感情
ヲ阻害スルカ如キハ以テノ外ナレハ此ノ種ノ報道ハ今後
トモ内密交換シ合フコトト致度シト述ヘタル趣ナリ
滿、北平、天津、青島、漢口、廣東、南京へ轉電セリ

703 昭和8年3月14日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

故宮博物館所蔵品を担保とする対米武器借款
説を在中國米國參事官否定について

第一五三號

在南京米國參事官「ベック」ノ十一日須磨ニ對スル談話要
領左ノ通

上海 3月14日後発
本省 3月14日後着

(一)故宮博物館ノ古物ヲ擔保トスル對米武器借款説(南京發
閣下宛電報第一四四號)ニ關シテハ在上海米國實業家等
ヨリモ問合セアリタルカ右ハ事實無根ニテ例ノ小麦借款
スラ今以テ行惱ミノ今日(往電第八八號)殊ニ金融恐慌ノ
折柄名儀ノ如何ヲ問ハス新借款ノ成立スヘキ謂レ無シ
(二)右ニ關聯シ支那側最近ノ遺練ハ中々分リ兼ナルモ評判ニ
依レハ宋子文ハ海關ノ外債支拂、積立金又ハ鹽稅收入中
ヨリ多少ノ軍費ヲ融通シ居ル趣ナリ(岸本ノ談ニ依レハ
海關收入中ヨリ別途支出シ居ルヤハ判明セサルモ右積立
金ヨリ融通シ居ラサルハ確實ナル由)

北平、滿へ轉電シ南京へ暗送セリ

704 昭和8年4月15日 在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

仮調印を完了したとされる米中航空協定要旨
について

南京 4月15日後発
本省 4月16日後着

第二四二號(極秘)

米支航空協定ニ付當館謀報者カ外交部秘書ヲ通シ苦心内査シタル處左ノ通

右ハ既ニ本年三月十六日華府ニ於テ施肇基ト米國國務省トノ間ニ假調印ヲ了シタリト稱セラルルモ此ノ點ハ更ニ調査ヲ要スヘシ(往電第二〇五號ノ次第モアリ發表ハ暫ク見合サレ度シ)

協定ハ三章十七條附屬細則四部協約一其他設計書、航空路表等ヨリ成ル頗ル浩瀚ナルモノナルカ其要旨左ノ通

一、米支兩國政府ハ世界平和ノ確保、九箇國條約ノ擁護ニ努メ其領土保全ヲ尊重スルノ所信貫徹ノ爲相協力シテ航空ノ充實ヲ計リ以テ空軍ノ基礎樹立ヲ期セント欲シ相互ニ全權ヲ派シ協約ヲ締結ス

一、本協定ハ五箇年ヲ有効期間トシ草案ノ調印ト同時ニ其效力ヲ發生ス五箇年滿期後兩國カ修正ノ提議又ハ廢止ノ聲

シ必要ノ場合米國飛行機、飛行船ノ自由着陸ヲ許容ス但シ支那政府ハ本協定廢止後之ヲ回收ス(右ニ關スル附屬協約一)

支那政府ノ派遣セル航空研究員ニ對シ米國政府ハ其ノ學費全額ヲ免除シ且ツ如何ナル航空學校ニ受験入學スル場合ニモ米國學生ト同等ノ待遇、教育ヲ爲ス

但シ前項學費免除ノ學生ハ卒業後第三國ニ於テ就職スル事ヲ得ス

一、國防ノ急ニ應スル爲大体三期ニ分チ支那飛行機ノ建造ヲ爲シ必要ノ場合ハ米國政府ヨリ既成ノ國防用飛行機ヲ支那ニ融通ス

該飛行機建設計畫及附屬細則左ノ如シ

第一期、民國廿二年七月ヨリ廿三年六月ニ至ル十二ヶ月偵察機五〇、驅逐機六〇、爆撃機三〇、重爆撃機一五、合計一五五

第二期、廿三年七月ヨリ廿四年八月ニ至ル

偵察機一〇〇、驅逐機八〇、爆撃機五〇、重爆撃機三〇
合計二六〇

第三期、廿四年九月ヨリ廿五年十二月ニ至ル十六ヶ月

明無キ限り有效ニ繼續スルコトヲ得

一、支那航空ノ改善充實ニ付米國側ハ全責任ヲ以テ施設計畫ヲナシ雙方ノ同意ヲ經ルニアラサレハ第三國ト航空ニ關係アル如何ナル條約ヲモ締結スルヲ得ス

一、支那ノ航空ノ發展ニ要スル經費ハ其半額ヲ支那政府ニ於テ調達シ殘餘ヲ米國政府及其指定ノ米國商工業者ヨリ信用貸付ヲナシ政府ヨリノ貸金ハ利息ヲ免除ス

一、支那航空建設ニ要スル經費ノ總額ヲ當分米貨四千萬弗(支那貨約一億二千萬元)ト定ム

一、支那本部ニ飛行機製造工場一、沿岸ニ修理工場四ヲ設立シ一切ノ所要機械ハ米國ヨリ購入シ半箇年内ニ其引渡ヲ完了ス(此ノ所要經費ヲ約米貨五百萬弗トシ別ニ設計見積書ヲ附ス)

一、該工場長ハ米國人ヲ任命ス但シ支那政府ハ之ヲ指導監督シ且技術者以外ハ全部支那人ヲ使用スルコトヲ得

一、時局ノ必要ニ應スル爲支那航空公路、着陸場、格納庫等ハ適宜沿岸ノ部分ヲ先ニ選擇建設スル事ヲ得、少クトモ本年内ニ汕頭、泉州、鎮海、海州等ノ着陸場ヲ建設シ上記各着陸場ノ建設費ハ其ノ十分ノ八ヲ米國政府ヨリ補助

偵察機一八〇、驅逐機一二〇、爆撃機七五、重爆撃機四五合計四二〇、以上

總計八三五

右ノ内偵察驅逐兩機ハ平常其ノ半數ヲ商用ニ供シ爆撃機及重爆撃機ハ其ノ三分ノ一ヲ商業用トシ此種大型機ハPan American Air Ways (聯美公司)ニ於テ建造シ中國航空公司ト連絡シテ米支間航空輸送ヲナス

以上ノ飛行機ハ約四分ノ一ヲ支那ニ於テ建造スル外全部米國ニ於テ建造シ又ハ米國空軍中ヨリ融通ス尙支那現有飛行機及(脱)並ニ海外華僑購入ノモノヲ之ニ加ヘ(商用機ヲ含ム)五ヶ年内ニ總數千二百臺ニ達セシメ其中百分ノ四十ヲ水陸兩用トス

一、支那空軍ノ編制訓練及通常ノ管理ハ米國ノ方式ニ倣フ(附屬細則二種)

一、各隊ニ米人ノ副官一乃至二名ヲ置キ支那人隊長ハ米國副官ノ指導ヲ受ク

一、杭州、武昌、洛陽ノ各航空學校ニ米國顧問ヲ招聘シ明年度ヨリ航空兵訓練班ヲ増設シ一班百人以上ヲ收容ス

一、空軍用武器及化學彈藥等ハ在支製造工場及修理工場ニ於

テ可及的ニ製造シ不足ノ場合ハ米國ヨリ供給ス

一、航空燃料ニ付米支合辨ノ形式ヲ以テ米國側カ楊子江上流地方ニ於テ之カ採掘ヲ爲スコトヲ許容シ且米國側カ沿岸飛行場ニ之カ貯藏所ヲ建設スルコトヲ許容ス(附屬細則三)

二、米支航空路ハ米國側ニ於テ自由ニ設定シ之ニ對シ支那政府ハ必要ノ便宜ヲ供與シ且必要ノ場合雙方ノ同意ヲ經テ其自由着陸權及臨時着陸場ノ設置ヲ許容ス(附屬表一)

三、支那側ノ航空經費調達辦法左ノ如シ(附屬細則一)

(イ)全國公務員航空救國捐(各員俸給月額ノ百分ノ十乃至二十ニシテ兵士、巡警、雜役夫ヲ除ク)

(ロ)全國各團體航空捐

(ハ)財政部鹽稅整理及餘剩稅收ニ依ル航空費

(ニ)航空公路建設ニ對シ財政部ノ彩票發行

(ホ)海外華僑ノ航空捐

(ヘ)各省ニ於ケル地方航空捐

(ト)郵便航空捐

(チ)航空救國公債

尙宋子文ノ華府經濟會議參列ハ米國トノ借款問題ト共二本

南京發大臣宛電報第二四二號ニ關シ

本件航空協定ハ客年秋頃ヨリ流布セラレタルモノノ根據ト認メラルル處之カ調印ハ公使發大臣宛電報第八八號「ペツク」ノ談話等ニモ鑑ミ眞否疑ハシク(諜報者カ係ノ試案ノ如キモノヲ擲マセラルルコトハ從來共有リ勝ノコトナリ)充分調査ノ要アリ冒頭上村電報見据着ク迄之カ取扱御注意ヲ請フ爲念(右兩武官トモ打合セ濟)

大臣、滿、南京ヘ轉電セリ

(付記)

上海 昭和9年2月24日後6時0分發

參謀本部 昭和9年2月24日後7時50分着

支第一六一號

件 米支航空協定ニ関シ秦カ米人フアカスヨリ聞キ込ミ得タル情報ニ依レハ元來協定ナルモノハ宋子文カ財政部長時代彼ト米國航空會社トノ間ニ締結スル計画ナリシモノニシテ其内容ハ海州ニ飛行場ヲ建設シ將來必要ノ場合ハ米國ヨリ飛行機二十臺ヲ供給スル事ヲ主要項目トシ協定有効期間ヲ二十ヶ年トスルニアリシカ其後米政府側ノ同意無ク且米商方

件ニ付テモ重要使命ヲ有スルモノト傳ヘラル
右聞込ノ儘

支ヨリ上海ヘ、廣東ヨリ香港ヘ轉電アリ度シ
支、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、滿ヘ轉電セリ

705 昭和8年4月17日 在中國堀内公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

米中航空協定調印の眞否疑問につき同協定要旨の取扱注意について

付記 昭和九年二月二十四日發在中國鈴木公使館付

武官より植田參謀次長宛電報支第一六一号

米中航空協定不成立に關する情報について

上海 4月17日後發
本省 4月17日後着

第二〇二號(極秘)

本官發北平、天津、濟南、青島、漢口、廣東、福州、上海

宛電報

合第二〇七號

面ニ對支投資ニ反對スル向アリシ爲該案ハ遂ニ成立ヲ見ルニ至ラス目下單ニ資本金一千萬米弗ニ達セサル中國航空公司ノ頗ル小規模ナル事業ニ任セラレアル次第ナリト此儘信ヲ措キ難キモ參考迄

関、北、天、台、南、漢、廣スミ

706 昭和8年6月2日 在厦門塚本領事より
内田外務大臣宛

漳電(漳州—電岩)鐵道建設計画をめぐる米國

の動向について

機密第二三七號 (6月15日接受)

昭和八年六月二日

在厦門

領事 塚本 毅(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

漳龍自働車路開通並鐵道建設計劃ニ關スル件

一、本件ニ關スル十九路軍側計劃ニ關シテハ本年二月十七日附普通第五八號並四月一〇日附普通第一一九號往信ヲ以テ報告申進置ケル處最後ノ難工事タル和溪適中間ノ道路

モ五月二十二日ヲ以テ完通シタル趣ニテ漳州十九路軍總指揮部ニ於テハ參謀長黃強幹旋ノ下ニ在厦米佛兩國領事(英國領事ハ所用不參、本官ハ案内ヲ受ケス)在台北米國領事、救世醫院長(米國人)福建財政廳長范其務其他支那側官民有力者數十名ヲ招待シテ之カ視察旅行ヲ行ヒタリ右一行ハ八台ノ自働車ニ分乘シ五月廿七日午前十一時半頃漳州發同日午後五時龍岩着同地ニ一泊ノ上廿八日市内見物鑛山(主トシテ炭山ナルモ鐵鑛モ不尠ト言フ)視察ヲ爲シ午后同地發途中降雨泥濘ノ爲豫定ヨリ遅レ夜十二時漳州ニ歸着セル趣ナルカ從來ノ如ク徒歩ニ依ルトキハ漳州ヨリ少クトモ難行三日間ヲ要シタルニ比スレハ全ク隔世ノ感アル次第ナリ

ニ、五月廿九日福州ヨリ來厦セル新任省政府委員李清泉ハ往訪ノ新聞記者ニ對シ自分ノ來厦セルハ漳龍鐵路問題(右新道路路ニ併設ノ計劃)ノ促進ニ在ル處福建省建設委員會ニ於テ漳龍鐵路籌備委員會ヲ組織シタルハ既ニ久シキ以前ノコトニ屬スルモ未タ具體的の進行ヲ見サル狀態ニ付今般當地黃奕住(李清泉ト共ニ同鐵路建設ノ發起人ニ舉ケラレ居ル華僑中ノ富豪)ト籌備處設置ノ件ヲ協議スル筈

米國領事ニ對シ可然援助方申入レタル趣ナリ仍テ米國領事ハ在漳州同國牧師安德遜(Anderson)ヲシテ漳龍間ヲ實地踏査セシメ又領事自身モ南靖縣下ヲ視察シ秘ニ計劃ヲ進メ來レル由ニシテ前記自働車道路視察旅行モ米國領事並ニ其ノ關係者ヲシテ實地檢分セシムル目的ニシテ他ノ外國領事招待ハ一ノ「カムフラージ」ト思料セラル尙具體的の適合ニ付テハ未タ確聞スルヲ得サルモ安德遜ノ昵懇者ニシテ漳州隨一ノ有力者ト目サルル陳啓裕ハ本件鐵道計劃實現セハ米國ノ可然會社ヨリ投資ヲ見ルニ至ルヘシト語レル趣ニシテ又六月一日來厦セル華僑成功者李双輝ナル者(李清泉ノ親戚)ハ右建設委員トシテ李清泉周醒南其他十九路軍側要人ト協議ノ上具體的の計劃ニ入ル段取りナル旨ノ牒報アリ尙最近十九路軍側ニ於テハ黃強ヲ「マニラ」ニ派遣スヘキ旨ノ新聞報道アルニ照シ未タ具體的の協定ニハ達シ居ラサルモノト思考セラルルモ相當ノ諒解ニハ達セルモノト察セラル過般在「マニラ」支那總領事ノ歸國當地立寄モ右進行ノ用務ナリシモノト察セラレ米國側ノ對十九路軍策動ハ別信武器問題ノミナラス可成手廣ク喰込ミ居ルモノト認メラル引續キ注意中ナルモ

ナリシ處黃ハ目下上海ニ在ルニ付自分ハ先ツ漳龍間ヲ視察シタル上赴滬シ黃ト面談スル筈ナル旨語レル趣ナリ
三、本來漳龍鐵道ハ龍岩方面開發ノ爲古クヨリ計劃存シタルモノニシテ十九路軍ハ入閩以來軍事上ノ見地ヨリ其ノ實現ヲ希望シ先ツ其ノ前提トシテ自働車路ヲ構築セル次第ナルカ其ノ事情ヲ内査スルニ十九路軍ハ華僑方面ニ對シ極力投資ヲ慫慂シ來レル由ナルモ華僑連ハ時局不安定或ハ十九路軍側ヨリノ權利侵害等ヲ杞慮シ不況ヲ口實ニ投資ヲ差控ヘ來リ其ノ實現ハ覺束ナキモノト見ラレ居リタル處最近愈々其ノ實現ノ氣運見エ初メタルヲ以テ其ノ成行極力内査ノ結果此間米國ノ策動加ハリ來レルコトヲ探知スルヲ得タリ即本年三四月頃比律賓ノ華僑林平祥(石碼出身資産三四百萬元)同林石國(漳浦出身資産二三百萬元)省政府委員李清泉及華僑成功者楊某等相次テ比島ヨリ歸國セル彼等ハ十九路軍側ノ慫慂モアリ當地華僑界ノ元老タル黃奕住トモ計リ本件鐵道建設計劃ヲ進メ來レル次第ナルカ此等資本家ハ外國資本ノ介ニ依リ投資後ニ於ケル軍側ノ專横乃至利益蹂躪ヲ避クルノ得策ナルヲ感知シ前記林平祥及林石國兩名カ比島國籍ヲ有スルヲ幸ヒ

不取敢報告申進ス

本信寫送附先

在華公使 北平 南京 上海 福州 廣東 汕頭
漢口 マニラ 台灣總督府 台灣軍 馬公

707

昭和8年6月3日

在厦門塚本領事より
内田外務大臣宛

十九路軍と米國との接觸振りなどに関する情

報について

機密第二三八號

(6月15日接受)

昭和八年六月三日

在厦門

領事 塚本 毅(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米國ノ十九路軍ニ對スル策動ニ關スル件

本件ニ關シ客月中旬不取敢電報ヲ以テ申進メ置ケル處其ノ詳細及其ノ後探知シ得タル情報左ノ通り報告申進ス

(欄外記入)
一、米國第五驅逐艇隊來厦 同艇隊ハ十三隻ヨリ成リ砲艦 Fulton ト共ニ五月十八日來厦廿八日出港北上セルカ當

地米國領事ハ之ヲ期トシテ十八日夜晚餐會ヲ準備シ其ノ數日前本官夫妻宛招待狀ヲ發送シ來レルカ其ノ當日トナリ突然取消ヲ通知越セリ何等カノ都合ナルヘクト存シ當時別段氣ニモ留メサリシ處其ノ後驅逐艇隊ノ行動ヲ見ルニ Fulton ノミハ鼓浪嶼裏ニ碇泊シテ動カサリシモ驅逐艇十三隻ハ何レモ梧嶼燈台附近ニ碇泊シ當地ヨリハ望遠鏡ニ非サレハ認メ得サル遠隔ノ地ニ止マリ且ツ碇泊中毎日ノ如ク移動シ異常ノ感ヲ懷セタリ元來米海軍來厦ノ際ハ水兵上陸シテ市内各店ヲ潤スヲ例トスルニ拘ラス今回ハ Fulton ノ水兵僅少上陸セルノミニテ他ハ一切上陸スルコトナク市民一般期待ニ外レ之ヲ奇異ニ感シタル模様ナリ或ル者ハ日支事變中ナルニ付遠慮シタルモノトノ説ヲ爲スモ其ノ後ノ情勢ヨリ見ルニ同艇隊ハ或ハ十九路軍ニ對スル武器ノ陸揚ヲ爲セルニ非スヤト疑ハル

ニ、米國領事ノ十九路軍總指揮部訪問
米國領事ハ四月廿八日突如漳州ニ到リ當館天長節祝賀「レセプション」ニ參會セサリシ處副領事代理トシテ參會シ領事ハ宣教師ト共ニ田舎ノ避難地檢分ニ出掛ケタル旨語リタルカ其ノ數日前領事自身本官ニ對シ欣然參會ス

セルモノトモ解シ得ラルル處米國領事其ノ後ノ話振ヨリ見ルニ米海軍及黃強ヨリ除外方要求セルモノトモ觀察セラル尙同夜黃強ハ華僑ノ元老黃奕住宅ニ宿泊セル旨新聞紙ニ掲載セラレタルモ内査セルニ同人ハ米海軍司令及 Isabel 艦長ト共ニ同領事官邸ニ宿泊シタル趣ニシテ何等カノ密談アリタルモノト察セラル

四、陳銘樞及蔡廷楷^(廟カ)ト米國領事ノ同船着厦

前記米艦 Isabel ハ五月十二日福州ニ赴ケル處米國領事ハ之ニ便乗シ赴福セリ其ノ用務ハ省政府ト自動車賣込ノ協議ヲ爲スニ在リタルモノト推測セラル當時新聞紙上ニ於テハ同領事ハ陸路歸厦スヘキ旨傳ヘラレ居リ留守役ノ副領事モ其旨本官ニ語リ居リシ處極秘裡ニ福州ヨリ同艦ニテ香港ニ到リ陳銘樞蔡廷楷^(廟カ)ト共ニ同地ヨリ「ジャバチヤイナ」船ニ便乗シ十八日歸來セリ赴福用向カ主トシテ自動車賣込ニ在リシコトハ歸路ヲ陸行トセルニ徴シ之ヲ推測シ得ラルル處ニシテ新ニ築造セル福州泉州間ノ道路ニ自動車便ヲ開クヘキコトハ既ニ新聞ニ發表セラレ居ルコトナリ然ルニ道路檢分ヲ中止シ突如香港ニ行ケルハ黃強ヨリ打電セル結果ナル由ニシテ陳及蔡ト會談ノ機

ヘキ旨語リタルニ不拘突然且重要用務ニモ非サル旅行ノ爲メ缺禮スルハ聊カ腑ニ落チサリシニ付内査セルニ元來米國領事ハ屢々漳州ヲ訪レ又十九路軍參謀長黃強ハ屢同領事ヲ訪問シ居ル模様ニシテ其ノ間何等カノ事情存スルコトハ万人之ヲ噂シ居ル次第ナルカ當時ニ在リテ聯絡交渉ニ當ルモノハ米人宣教師ナル趣ナル處米人宣教師ノ大部分カ退役軍人ニシテ間諜^(諜カ)任務ヲ有スルコトハ既ニ定評アリ右各般ノ事情ヲ綜合スルニ米國領事ノ行動ハ本人自體策謀ヲ爲スニ非スシテ本國政府又ハ米國出先海軍ノ指揮スルカ儘ニ活躍シ居ルモノノ如ク本官ニ對スル辯解ノ如キモ支離滅裂ニシテ其ノ秘密行動モ他ニ感知セラレ易キコト多シ

三、鄭總領事招待晚餐會

在「マニラ」支那總領事鄭光林ハ南京政府ノ招電ニ依リ歸國ノ途上五月八日當地ニ立寄レル處翌九日夜米國領事ハ之ヲ主賓トシテ晚餐會ヲ催シ宛モ當時入港中ノ米砲艦 Isabel ニ搭乘セル米國南支警備司令 C. W. Early 及十九路軍參謀長黃強其他米支人ト英佛領事ヲ之ニ招待セリ本官ヲ招待セサリシハ日支事變中ノコトニモアリ之ヲ遠慮

ヲ捫^(掴)ムヘク急遽軍艦ニ依リテ香港ニ到リ陳蔡ト同船ニテ歸厦セルモノナリ

五、福建防空ト米國援助説

米國ノ福建防空援助説ハ最近一般通説トナリ居リ前記米國領事ノ活動振ヨリ見ルモ否定スヘカラサルモノト思考セラルルモ其ノ内容ハ未タ何人モ之ヲ明ニスルヲ得ス元來十九路軍ノ福建移駐ハ南洋華僑ノ懇請ニ依ルモノニシテ防空問題モ亦華僑ト密接ナル關係アリ南洋華僑カ上海事件當時同軍ニ對シ多額ノ軍費ヲ獻金セルハ衆知ノ如クニシテ同軍ハ右獻金ヲ以テ上海ニ國華銀行ヲ設立シ其ノ金融機關ト爲シ居レリ仍テ同軍ハ其ノ謝禮使トシテ客年末旅長翁照垣(吳淞砲台ヲ守リ崇拜ノ中心タリ)ヲ比島ヘ派遣シ又右獻金募集ニ功績アル李清泉ヲ福建省政府委員ニ擬シ(最近就任セリ)許友超ヲ厦門市長ニ迎ヘ又黃奕住三男ヲ十九路軍顧問ニ任スル等華僑ト密接ナル關係ヲ保持シツツアル様ノ次第ナルカ航空機問題カ華僑ト關係ヲ有スルニ至リシハ翁照垣ノ訪比以來ニシテ同人カ比島ニ於テ十九路軍敗退ハ航空機ノ不備ニアリシヲ訴ヘタル結果同地華僑ハ中國航空建設協會ヲ設立シ三千「ペソ」ヲ

福建防空費トシテ電送セル外黃奕住ハ個人ニテ五万「ペソ」ヲ蔡廷楷^{（電）}ニ直送、李清泉ハ二万五千米弗ヲ投シテ戰闘機一台ヲ「セブ」ノ華僑ハ合同シテ二万米弗ノ偵察機一台ヲ又某華僑團體ハ爆撃機一台ヲ夫々獻納セリ右航空機ハ皆米國ヨリ購入セルヲ以テ米國ハ茲ニ在比華僑ニ接觸スルニ至リ十九路軍カ多額ノ軍費ヲ擁スルヲ探知スルヤ華僑ヲ通シテ同軍ニ接近シ來リタルモノト推測セラル即當初ハ航空機賣込ヲ目的トセルモノナルカ接衝進ムニ從ヒ十九路軍側ハ福建ニ米國ノ海軍及空軍根據地ヲ提供スルノ態度ヲ示シ來リ米國側ハ海空軍ノ根據地獲得ノ野心ト軍需品賣込ノ商談トニ熱中シ來リ前段各項ニ記スルカ如キ當地米國領事ノ活動トナレルモノト察セラル當地華僑間ノ消息ニ依レハ蔡廷楷^{（電）}ハ自費（華僑ノ獻金？）ヲ以テ航空機ヲ購入スルコトハ容易ニ肯セサル爲メ米國側ハ華僑ヲシテ購入セシメ之ヲ獻納スルノ形ヲ採ラシメントスルモ華僑ハ既ニ十九路軍トノ惡緣ニ壓氣^{（壓）}ヲ催シ來リ居ル爲メ交渉極メテ困難ナリト稱セラル然レ共米國ハ既ニ技師（或ハ在支退役軍人宣教師カトモ疑ハル）ヲ派遣シ飛行場ノ檢分ヲ爲シタリトモ傳ヘラレ最近ニ於テハ米國製

優秀戰闘機一台來閩シ演技ノ上賣買交渉ニ入ル旨ノ新聞記事モアリ米國領事ノ行動ヨリ察スルモ歩一步ト右風説ヲ實現スルニ非サルヤト思考セラル
尙米機購入ニ關聯シ福建ノ防空計劃ヲ内査スルニ福州廈門泉州永春及三都ノ五ヶ所ニ航空計劃ヲ設置スル筈ノ由ナルカ右所要經費ハ最低六千万^{（電）}元ノ多額ナルヲ以テ初期ニ於テハ僅少ノ航空機ヲ配置スルニ止ムル代リ優秀ナル高射砲各五十門ヲ備ヘ付クル筈ナルカ其ノ購入費約七百万元ヲ要シ之モ亦金策困難ト觀ラレ居レリ斯クノ如ク計劃ハ完備シ居レルモ資金缺乏ノ點ニ於テ米國側トノ交渉意ノ如クナラサルモノト觀測セラル然レ其噂ノ如ク支那側ニ於テ海軍根據地ヲ提供スルニ決シ其ノ方法確定スルニ於テハ米國ハ或程度ノ財的犠牲ヲ拂フヘキコト勿論ナルヲ以テ支那側ノ資金難ハ容易ニ解決スヘク支那側ハ又此點ヲ見越シテ米國ト取引シツツアルモノト見サルヘカラス帝國國防ノ脅威タルニ鑑ミ條約上ノ抗議其他適切ナル防止策ヲ研究スルコト緊切ナルヘク思考セラル
六、其他ノ米國投資計劃
防空施設以外米國カ目下福建ニ於テ策動シツツアルハ漳

龍鐵道投資、龍岩鑛山投資及自動車賣込等ナルカ漳龍鐵道ニ關シテハ（本月二日附機密第二三七號報告ノ通りニシテ稍具本化^{（本）}シ始メ居レリ）華僑間ノ消息ニ依レハ其ノ工費千六百万元ヲ要スル趣ニシテ利益ヲ好餌トシテ華僑ノ投資ヲ募ルトスルモ尙容易ノコトニ非サルヘク華僑方面ヨリ既ニ米國領事ノ援助ヲ求メ居ル狀態ナリ尙同鐵道ノ目標タル龍岩地方ノ鑛山開發ニハ八百万元ノ資本ヲ必要トスルモノト見積ラレ居リ之又米國ノ投資ヲ求ムルモノト察セラルル處一説ニ依レハ米國政府ハ某會社ニ右投資ヲ慫慂^{（慫）}シツツアリト傳ヘラル次ニ自動車賣込問題ハ相當ニ進捗セルモノノ如ク福州泉州間及漳州龍岩間ニハ定期自動車交通ヲ爲ス旨報セラレ居レリ米國資本ノ會社ニテ經營スルモノナリヤ又ハ單ニ米國ハ自動車ヲ賣込ムモノナリヤハ判明セサルモ右諸投資問題ハ元々福建ニ對スル米國ノ軍事的策動ノ副產物トモ云フヘキモノニシテ夫自身單獨ニ交渉成立スルコトハ困難ト見ルヲ至當トス依而右諸投資ト軍事的策動ハ相關聯スルモノト見テ間違ナルヘク右平和的投資成立セハ裏面ニ於テ軍事的策謀モ成功セルモノト見ルヘキ乎ト思考シ居レリ

本信寫送附先

在華公使 北平 上海 南京 福州 廣東 汕頭
漢口 マニラ 台灣總督府 台灣軍 馬公

（欄外記入）

本件事実ナラハ警戒ヲ要スルモ今少シク事態ノ推移ヲ見ルコト可然 守島

708 昭和8年6月30日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛（電報）

漳龍鐵道建設計画への対応振り回示方稟請

第一九六號

往電第一九五號ニ關シ

福州 6月30日前発
本省 6月30日後着

漳龍鐵路建設ノ問題ハ具體的トナリ工事着手モ遠カラス（測量ハ既ニ數年前ヨリ行ハレアリタルラシ）ト觀測セラルル處右計畫ハ假令外資ヲ輸入スルカ如キ事アリトスルモ明治三十一年ノ日支交換公文ニハ抵觸セス大正四年日支交換

公文ノ前例ニ則リ支那側ノ注意ヲ喚起スル事モ不可能ナルヤニ解セラル本件ニ關シ本官ニ於テ心得ヘキ事項折返シ御回示ヲ得タシ尙冒頭往電三林ニ出資ヲ懇懇シ居ル點ニ付テハ林ヨリ本官ノ意見ヲ求メタルモ本官ハ研究ノ上答フヘシト述ヘ置ケルカ林ハ既ニ多額ノ借款カ不整理ノ儘放置セラレ居ル現狀ナルモ之レカ整理ト關聯セシメ得ル投資方法アレハ此ノ際投資スルモ可ナリトノ意ヲ洩シ居タリ此ノ點ニ付テハ孰レ更ニ林ト相談ノ上何分ノ儀申進スル事ト致シ度シ

前電ノ通轉報アリタシ

709 昭和8年6月30日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

福建省海軍側へ米國が武器を供与していると
の情報について

福州 6月30日後發
本省 6月30日後着

第一九七號

米國海軍ハ獨リ十九路軍ノミナラス海軍側トモ聯絡シ居ル

支、北平、南京、廣東、汕頭へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ
厦門へ暗送セリ

710 昭和8年7月6日 内田外務大臣より
在福州守屋總領事宛(電報)

我が方は漳電鐵道建設への外資導入などを黙過し
得ない旨中国側関係者に暗示し反響注視方訓令

付記 作成日不明、亜細亜局第一課作成

「福建ニ於ケル米國側策動阻止策及其ノ條約
上ノ根據」

本省 7月6日後8時30分發

第二四號

貴電第一九六號ニ關シ

件 一、貴官及在厦門領事ヨリノ報告ニ徴スルニ支那側ニテ漳龍鐵道布設ノ外米國等ニ對シ種々利權ヲ提供セムトスルカ如キ形跡モアリ此ノ際我方トシテハ充分警戒ノ要アル次第ナリ然ルニ福建ニ於ケル鐵道ノ布設ニ外資ヲ用フルコトニ付テハ明治三十一年矢野公使ニ對スル清國政府ノ口約

疑アリタルニ依リ諜知ニ努メ居タル次第ナルカ今般前建設廳港務局長ニシテ東大出身ナル林恩溥(現ニ前財政廳長何公敢ノ顧問ニシテ十九路軍ニモ海軍ニモ聯絡アリ林ノ名ハ極秘ニ願ヒ度シ)ヨリ諜報者(當地博愛病院院長ヲモ含ム)ノ探出シタル所ニ據レハ(一)東山灣ヲ米國ニテ海軍根據地又ハ貯炭所等ニ利用スルヤノ噂ハ單ナル流言ニ過キササル可シ(二)但シ海軍ハ陳季良李世光ヲ經テ今年中ニ潛水艇二隻飛行機六臺(内二臺ハ爆撃機)高射砲十五門右砲彈五千發ヲ米國ヨリ寄贈セラレタリ潛水艦ハ着セルヤ否ヤ不明ナルモ他ハ主ニ厦門ニテ陸揚ケシ既ニ海軍ノ手ニアリ一部分ハ福州ニテモ陸揚ケシタリトノ事ナリ在支公使發本官宛電報第六一號杜錫珪ノ談話ニ不拘(杜過般ノ上京モ之ト關係アルヤノ疑アリ)警備艦ノ來福ノ前後ニ於テ多數ノ支那軍艦カ頻リニ當地ニ往來シ其ノ際前記陳及李ハ屢蔣光鼐及蔡廷楷ト往來シタルコトヲ想起スルニ(當時彼等ノ往來ハ陸戰隊及共匪討伐砲臺問題ニ關スル海軍隊十九路軍打合ノ爲ト報セラレタリ)右諜報ハ輕々ニ看過ス可カラサル様思ハルルニ付引續キ探索中(特ニ潛水艦ノ所在)右不取敢

海軍省ヲ通シ馬公要港部へ御轉報アリ度シ

(客年十二月八日附厦門宛機密第八五號參照)アルノミナラス右ハ明治三十一年及大正四年ノ交換公文ノ精神ニモ矛盾スルモノト云フヘク又米國等ニ鐵道以外ノ利權ヲ與フルコトモ此等交換公文ノ精神ニ一致セサル次第ナリ(米國側ニ對シ飛行場ノ設置等海軍又ハ空軍ノ根拠地設置ヲ許スカ如キハ右交換公文ニ正面ヨリ抵觸スルコト勿論ナリ)

ニ就テハ滿洲事變以後我方ノ實力行使ヲ警戒シ居ル支那側ニ對シ我方ノ態度ニ付相當ノ脅威ヲ感セシメテ其ノ出方ヲ見今後ノ措置振決定ニ資スルコト事宜ニ適スト思考スルニ付貴官及在厦門領事ニ於テ右御含ノ上支那側關係ノ向々(民間ヲ含ム)ニ對シ『支那側ニテハ漳龍鐵道ノ布設ニ外資ヲ利用セムトシ居リ又右以外ニモ外國側ニ何等カ利權ヲ附與セムトシ居ルヤノ情報アル處(厦門來信第二三八號其ノ他ノ事實中適當ノモノヲ夫レトナク仄スコトモ一策ナルヘシ)我方トシテハ福建ノ臺灣ニ對スル特殊ノ關係ニ顧ミ多大ノ關心ヲ持チ居リ殊ニ鐵道ノ布設ニ付テハ前記約束(約束ノ時期及當事者並ニ其ノ口約束ナルコト等ハ此ノ際明瞭ニスルコトナク漠然其ノ内容ヲ告ク

ルコトト致度アル次第ナリ兎ニ角支那側カ右約束及明治三十一年及大正四年ノ交換公文ノ辭句及精神並ニ公文交換ニ至レル經緯等ヲ無視シ福建臺灣ノ特殊關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスカ如キ措置ニ出ツルニ於テハ我方ハ之ヲ默過セサルヘシトノ趣旨ヲ夫トナク告ケ先方ノ反響ヲ見ルコトト致度(但シ差当リ外國側殊ニ米國領事等ノ注意ヲ喚起スルコトハ避ケラレ度尙ホ前記約束ノ法律的性质並ニ大正四年交換公文ノ華府會議ニ於ケル經緯等ニ付テハ郵報ノ筈)

三、尙ホ林熊祥カ漳龍鐵道ニ投資關係ヲ付クルコトハ將來ノ云掛リトシテ甚タ望マシク又客年末迄ノ林熊祥借款整理交渉トモ關係ヲ付ケ得ヘキヤニモ存セラルルモ何分ノ儀ハ貴官ヨリ更ニ報告アリタル上申進スルコトトスヘシ訓令トシテ厦門ヘ轉電アリ度シ

參考トシテ汕頭、廣東ヘ轉報アリ度シ
參考トシテ米、支、北平ヘ轉電セリ

米ヘハ關係電報全部暗送ノ上要領轉電スミ
米ヨリ紐育ヘ、支ヨリ南京ヘ暗送セシム

明治三十一年ノ交換公文アリ又外國ニ對シ同省沿岸地方ニ於テ造船所、軍用貯炭所、海軍根據地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲナスコトヲ許サス且外資ニ依リ支那自ラ前記施設ヲナササルヘキコトニ付大正四年ノ交換公文アリ將又同省内鐵道建設ノ爲ノ外資輸入及外國人技師招聘ニ關スル日本側優先權ニ付明治三十一年ノ口約存スル次第ナル處(別紙乙號^省前半參照)前記米資ニ依ル漳龍鐵道ノ建設ハ明治三十一年ノ口約ニ反スルノミナラス明治三十一年及大正四年ノ交換公文ノ精神ニ矛盾スルモノト云フヘク又米國側ニ對スル福建省内各種利權ノ附與ハ右等交換公文ノ精神ニ矛盾スルノミナラス萬一海軍及空軍根據地ヲ提供スルカ如キコトアラムカ右該交換公文ニ正面ヨリ抵觸スルモノト云ハサルヘカラス

三、仍テ此ノ際別添電信案^編ノ如ク現地領事官ヲシテ支那側關係官民ノ注意ヲ喚起スルト共ニ其ノ出方ヲ見ル一方各般ノ方法ニ依リ前記情報ノ真相ヲ確メ以テ今後ニ於ケル我方ノ措置振決定ニ資スルコト可然

四、將又米國ニ對スル關係ニ付テハ大正四年日支交渉ノ際米國側ヨリ全國トシテハ前掲同年交換公文ノ内容ノ如キ利

(欄外記入)

支那ニ於ケル外國ノ勢力廢除ニ付テハ手嚴シキ態度ハ望マシキコトナリ

必要ニ応ジテハ右ノ方針ヲ在外使臣ニ旨ヲ含マシメ例ヘバ米國ノ五千万信用貸シノ如キ場合在米大使ハ機會ヲ捉ヘテイヤミヲ云フ位ノコトハヤル様ニシ度シ

(付記)

福建ニ於ケル米國側策動阻止策及其ノ條約上ノ根據一、在福州總領事及在厦門領事ノ報告ニ依ルニ近來福建省ニ於テ米國領事等米國側種々暗躍ノ模様ナル處右ニ關シ十九路軍側ニテハ豫テ計畫中ノ漳龍鐵道建設資金トシテ華僑出資ノ外一部ヲ米國資本ノ輸入ヲ仰カムトシ居リ又同軍ハ米國製武器、飛行機、自動車等ノ輸入ノ外福建省内ニ於テ米國側ニ對シ種々ノ利權ヲ附與セムトシ殊ニ海軍及空軍根據地ヲ提供セムトシ居ルヤノ情報アリ(別紙甲號^省參照)

二、然ルニ福建省ハ我臺灣ト特殊ノ關係アリテ日支兩國間ニ同省内ノ土地ヲ他國ニ讓與又ハ貸與セサルヘキコトニ付

權ヲ獲得スルノ意向ナク又外國側ニ依リ斯種利權ノ獲得ヲ阻止スルコトヲ目的トスル取極日支間ニ成立スルモ何等異存ナキ旨言明ノ次第アリタルヲ以テ前記海軍及空軍根據地ノ獲得ニ付テハ我方ニ於テ抗議シ得ヘキハ勿論ナリ又右以外利權ノ附與及漳龍鐵道ノ外資ノ輸入ニ關スル我方對支主張ノ根據ハ必スシモ充分ニ強固ナリトハ云ヒ得ス從テ對米抗議ノ根據トシテモ如何カト思考セラレ現ニ前記大正四年日米折衝ノ際米國側ヨリ福建省ニ於ケル鐵道、鑛山等ノ問題ニ付テ迄約束スルコトハ米國ノ國柄上困難ナリトノ申出アリシ次第ナルモ(以上米國側トノ折衝ニ付テハ別紙乙號後半參照)福建ニ對スル我國ノ關心ハ世界周知ノ事實ナルノミナラス「ルーズベルト」政府ニ於テハ滿洲事變ニ伴ヒ著シク緊張セル日米間ノ空氣ヲ緩和セムトスル希望アルモノノ如ク加フルニ前記福建ニ於ケル米國側ノ暗躍ハ必スシモ政府ノ方針ニ出ツルモノナラサルヤニモ想像セラルルニ付今後ニ於ケル事態ノ推移及我方攻究ノ結果ニ依リテハ米國側ニ對シテモ本件ニ付適當話合ヲ行ヒ殊ニ鐵道、鑛山等ニ關スル利權ニ付キテハ必スシモ前記交換公文及口約等ニ緣由ヲ求ムルコ

トナク寧ロ日米間空氣ノ緩和等一般政治的考慮ヲ理由トシテ其ノ注意ヲ喚起シ以テ本件支那側ノ策動ヲ失敗ニ歸セシムルコト適當ナルヘシ

編 注 同電信案が内田外務大臣より在福州守屋総領事宛第

二四号として發電された。

711 昭和8年7月25日 内田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

漳電鉄道への米資導入説など福建省での米國

諸活動に関する報道は我が方の重大関心事で

ある旨同國公使館関係者に注意喚起方訓令

本省 7月25日後8時45分發

第一三四號

福州宛往電第二四號(合第二二八〇號)ニ關シ

一、現地領事ノ報告等ヲ綜合スルニ漳龍鐵道ニ對スル米資ノ引入ニ付テハ米國側ハ左迄熱心ナラス寧ロ支那側ヨリ懇請ヲ受ケ居ルモノナルカ如ク想像セラルルノミナラス廈門來電第一六一號末尾ニ依レハ米國領事ハ日本側ノ立場

ルモ斯ノ如キ風評ノ生レタル原因ニ付何等御氣付ノ點ナキヤ」等ノ趣旨ヲ貴館側ノ思付トシテ夫レトナク推問シ結果同電アリ度

北平、福州、厦門、及米へ轉電セリ

支ヨリ南京へ轉報アリ度シ

米ヨリ紐育、英、佛へ暗送セシム

712 昭和8年7月26日 在米國出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

漳電鉄道への米資導入説など福建省での米國

諸活動に関する報道を同國國務省極東部長否

定について

ワシントン 7月26日後發
本省 7月27日前着

第六四一號

往電第六四〇號ニ關シ

件 右往電極東部長ト會談ノ際武富ハ序ヲ以テ在支公使宛貴電第一三四號後段ノ趣旨ニ依リ近着ノ本邦新聞紙ニハ例ヘハ支那側ニ漳龍鐵道ヘノ米資引入ノ計畫アリテ福建省内ニ米

ヲ顧慮シ居ル模様ナリトノコトナルヲ以テ此ノ際本件カ我方ノ重大ナル關心事タルコトヲ適當米國側ニ響カセ本件ニ對スル全國側ノ態度ヲ愈々消極化スルニ資スルト共ニ軍事的根據地設置問題等ニ關スル先方ノ出方ヲ見ルコト事宜ニ適スルヤニ存ス

ニ就テハ適當ノ機會ヲ捉ヘ貴館員ヨリ米國公使館貴地出張員邊リニ對シ『最近支那側ハ漳龍鐵道ニ米資ヲ引入レムトシ居ルヤノ噂アリテ本邦新聞紙等ノ注意ヲ引キ居ル處支那ハ米國側ニ對シ果シテ右様ノ運動ヲナシ居ル譯ナリヤ(其ノ際必要ニ依リ我方カ福建省内ノ鐵道建設ニ優先權ヲ有スル旨ヲ仄スハ可然モ口約束タルコト其ノ他本件約束ノ性質内容等ニ付テハ餘リ詳シク明言セサルコトト致度尙從來本件約束ヲ列國側ニ通告シタルコトハナキモ明治四十年公文ヲ以テ英國ニ對シ支那カ福建省内鐵道布設ノ權利ヲ他國ニ與ヘサル旨我方ニ約束セル次第アル旨ヲ主張セル經緯アリ)又支那側ハ福建省ニ於テ米國側ニ對シ海軍若ハ空軍ノ根據地ヲ提供スルヤノ風説モアル由ナルカ明治三十一年及大正四年ノ日支間交換公文ハ公知ノ事實ナルニモ顧ミ右ハ爲メニスルモノノ宣傳カト存ス

國ノ爲軍事根據地ヲ提供セントスルヤノ風説スラ傳ヘラレ居レリト談及シタルニ對シ極東部長ハ支那側ニ右様ノ計畫アラハ厦門ノ「フランクリン」領事ニ話アルヘキモ同領事ヨリハ國務省ヘ今日迄何等ノ報告モ無シ恐ラク支那側ヨリ運動セラレテモ同領事ハ取上ケサル次第ナルヘシト輕ク一笑ニ附シ居リタル趣ナリ
英、佛、紐育へ暗送セリ

713 昭和8年8月2日 在南京日高總領事より
内田外務大臣宛(電報)

福建省での米國諸活動説に関する我が方注意

喚起に対し在中國米國參事官否定について

南京 8月2日後發
本省 8月2日後着

第三八三號

件 在支公使宛貴電第一三四號及在支公使來電第五二三號ニ關シ
福州在勤米國副領事ニ嫁セル娘訪問ノ爲三週間以前ヨリ同地ニ赴キ居タル米國參事官「ベック」夫妻數日前歸寧セル

ニ付七月三十一日本官同人ヲ往訪シ雜談ノ間ニ貴電(二)ノ趣旨ニ依リ漳龍鐵道及海軍航空根據地ニ關スル風説及本邦新聞ノ記事ヲ指摘シ右ニ對シ日本側カ神經過敏ナルハ無理カラヌ事ナリトテ日支間ノ約束取極ニ言及シタル處
同人ハ自分今般ノ南下ハ全ク私用及休養ノ爲ニテ福州ニ於テハ何等公務ニ關係セス、新聞サヘモ見サリシ位ニテ(支那側ト接觸ノ程度ニ關シテハ福州發在支公使宛第二號ト同様ノコトヲ述ヘ居タリ)(脱)ヲ話シ噂モ當地ニ歸リテ始メテ知リタル位ナリ米國側ニ於テハ福建省内ニ何等「エンタープライズ」ヲ企テ居ルコトナク根據地ノコト等ハ勿論虛報ナリ目下米國ハ國稅、財政經濟界ノ整頓ニ急ニシテ斯ルコトニ手ヲ出ス氣分ニ非スト答ヘタリ
在支公使、北平、福州、厦門ニ轉電セリ

714 昭和8年8月4日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

米国の中国航空事業開発に関するソーンヒル 元英国公使館付武官の談話について

立シ居ル廣東政府ヲ對手ニ交渉スルノ外ナシト考ヘ居ル次第ナリ
三、右運動中發見セル處ニ依レハ從來支那側ハ中國航空會社ノ株四十二「パーセント」ヲ保有スル旨傳ヘラレタルモ事實上同會社ノ株ハ全部米國主トシテ「カーチス」會社ノモノニシテ「カ」會社ハ此以外既ニ飛行機十八臺ヲ廣東ニ又十臺ヲ福建ニ搬入シタリト傳ヘラレ過去一年ノ間ニ「カーチス」會社ハ主トシテ支那側ノ人氣取ノ爲相當廉價又ハ月賦拂ノ形式ニテ多數ノ飛行機ヲ支那側ニ供給シタルモノノ如キモ之ハ結局支那側ノ手ニ乗セラレ無償「サービス」ノ憂目ヲ見ルコトナルヘシ

三、自分カ支那側ヨリ得タル印象ニ依レハ獨逸ノ四川製鋼工場建設英商「アーノルド」會社ノ江西「タングステン」鑛開掘「ア」會社ハ猶太系 Saxon ノ代表會社ニテ本件ハ單ニ實地踏査ヲ爲シタル程度ニ過キサ(ル由)米國ノ漳龍鐵道建設説等何レモ列國ノ投資野心家ヲ釣ラントスル支那一流ノ宣傳ニ過キス又航空關係ノミニ付テ云フモ航空部ノ新設計畫ヲ廻リテ張學良又ハ孔祥熙ノ部長説アリ國民政府要人間ニハ軋輓絶ヘス結局日支事件ノ解決ヲ見

上海 8月4日後発
本省 8月4日後着

第四五二號

元英國公使館附武官「ソーンヒル」ノ三日須磨ニ對スル談話要領左ノ通

「自分ハ支那ニ於ケル英國ノ航空事業開發ノ爲 Imperial Air Way ノ Sir John Higgins (現在東京ニ在リ)ノ案内役トシテ來支シ先ツ朱家驊ニ對シ現在ノ I. A. ノ濠洲航(空)路ノ分線トシテ新嘉坡ヨリ差當リ廣東次テ上海ニ至ル航空路ノ開設ニ對スル支那側ノ特許ヲ求メタル處ニカ條件トシテ右支線ニ要スル飛行機其他一切ノ施設ハ「A」ニ於テ調達シ且六ヶ年後ニハ一切ノ權利ヲ支那側ニ讓渡スヘキ旨ヲ附記ス(朱ハ「カーチス」會社ニ於テハ中國航空會社ノ上海廣東線ニ一籽ニ付一弗ノ特許料ヲ出スコトニナリ居ルニ付「A」ニ於テモ同額ノ特許料ヲ支拂フヘシト吹キ掛ケタルヲ以テ「カーチス」會社ニ付取調ヘタル處右ハ完ク事實無根ナルコト判明支那側ノ掛引ト squeeze ニハ自分モホトホト呆レ居ル次第ニテ「ヒギンズ」トモ相談ノ上本件ハ結局目下事實上南京政府ヨリ獨

715 昭和8年9月5日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

米国の中国航空事業の独占を画策とのソーンヒル談話について

付記 九月十二日、重光次官・在本邦ネヒル米國大使館参事官会谈要領
米國による中国航空事業進出および中国の対米國棉麦借款について

第五〇一號

上海 9月5日後発
本省 9月5日後着

往電第四五二號ノ一二關シ

四日「ソーンヒル」ノ須磨ニ對スル談話大要左ノ通り

「自分ハ八月中旬ヨリ廬山、南昌等ニ於テ蔣介石、朱家驊等ト屢次折衝ヲ重ネ又「ヒギンス」ハ日本ヨリ歸來後直ニ廣東ニ赴キ西南當局ト交渉ヲ進メタル結果支那側トシテハ「インピリアル、エーヤウエー」ノ新嘉坡廣東間ヲ

許可シ差支ナシトノ意嚮ニ傾キ來レルモノノ如キモ何分米國側ハ殆ト三ヶ月間ニ一打ト云フ様ナ割テ飛行機ヲ輸入シ(形式上ハ月賦又ハ年賦トナリ居ルモ事實上ハ無償)更ニ南京郊外ニ飛行場長江筋要地ニ飛行機製造所建設計畫等ノ好餌ヲ以テ飽迄英國側ト航空競争ヲ爲サン底意ナル爲I、Aノ延長線計畫ハ事實上實現望ミ薄トナレリ

二、中國航空公司及 Pacific American Airline ハ何レモPan-American Airway ノ子會社トモ言フヘキモノニテ中國航空公司ノ上海馬尼刺^刺間試驗飛行ノ成功ヲ機會ニP. A. Airline ニ於テハ更ニ右ノ線ヲ馬尼刺^刺ヨリ桑港及濠洲ニ聯絡セシメトノ計畫中ナルノミナラス P. A. Airway ハ米國ヨリ伯林、莫斯科、迪化、北平、鄭州、上海ヲ連結スル大航空路開設ノ計畫ヲ廻ラシ居ル等米國側ノ

形大ナル對抗策ニ對シテハI、Aトシテハ仲々太刀打來ス「ヒ」ハ來月早々歸英ノ事トシ自分丈ケハ暫ク残り廣東南昌等ニモ赴キ今一應運動シ見ル積リナルカ假令成功スルトモ實施ハ明春トナルヘシ(I、Aニ於テハ收入ヲ舉クル爲廣東以外香港及上海ニモ立寄ラシメタキ意嚮ノ由)

三、米國側ノ遣口ハ別ニ一定ノ計畫ヲ豫定スルト言フヨリハ競争者ノ現ハルルニ從テ之ヲ「オーバービッド」シ支那ノ航空界ヲ獨占セント目論見居ルモノノ如ク現ニ中國航空公司ハ主トシテ其社有機道線ノ關係上長ク上海廣東線計畫ヲ放置シ居タルニ拘ラスI、A側ノ計畫ヲ聞キ取急キ飛行機ヲ輸入シテ上海、香港、馬尼刺線ノ試驗飛行ヲ爲ス等米國ノ對支航空進出振ニハ各國トモ大ニ警戒ノ要アルヘシ

滿、南京、廣東、北平ニ轉電セリ

(欄外記入)

米國方面ニモ調査ノコト スミ

(付記)

重光次官米國大使館「ネビル」參事官會談要領

(米國ノ支那航空界進出及五千萬弗借款ニ關スル件)

昭和八年九月十二日米國大使館「ネビル」參事官「スタンダード、オイル」問題ニテ重光次官ヲ來訪ノ際

一、(イ)次官ヨリ「パン、アメリカン、エアウェイズ」トハ如何ナル會社ナリヤト問ヘルニ對シ「ネ」參事官ハ種々説明スル處アリタルカ其ノ要領左ノ通

「パン、アメリカン、エアウェイズ、コーポレーション」ハ米國最大ノ航空會社ニシテ例ヘハ紐育「リオ」「ブエノス、アイレス」智利「巴奈馬」「ジャマイカ」「フロリダ」紐育ト謂フカ如キ廣汎ナル線ヲ有ス同社ノ外米國ニテ大ナル航空會社トシテハ「カーチス」社及「ユナイテッド」航空機及空中輸送會社アリ又飛行機製造會社トシテハ「デトロイト、エアクラフト、コーポレーション」カ大ナルカ同社ハ支那ニ航空機ヲ賣リ込ミ居レリ云々

(ロ)次官ヨリ中國航空公司ハ米支合辦ナルモ實ハ米國ノ會社ナラスヤト問ヘル處「ネ」ハ結局ニ於テ然リ吾人ハ

之ヲ一ノ「コンセプション」ト考ヘ居レリト答ヘタリ

(ハ)又「ネ」ハ次官ノ問ニ對シ此等ノ飛行機會社ノ對支活躍ニ關シテハ米國政府ト何等ノ關係ナシ只何等關係アリトスレハ夫ハ米國ニ「パイロット」ヲ訓練スル學校アリ(次官ヨリ右ハ政府ノ經營スル「ミリタリー、スクール」ナリヤト問ヘルニ「ネ」ハ多分然リト答ヘタリ)其ノ卒業生ハ米國ノ「リザーブ、エア、サービス、オフィサー」トナリ居ル處彼等ハ一旦有事ノ際米國政府ニ召集セラルル迄ハ職業無キ爲支那ニ赴キ就職スルモノアリ若シ米國政府ト關係アリトスレハ此ノ點ナリト答ヘタリ

(ニ)依テ次官ヨリ米國ノ支那航空界ニ於ケル活躍ニ付日本人ハ非常ニ神經過敏トナリ居リ米國ノ軍事的野心ト考フル向モアルニ顧ミ斯種問題ニ付正當ナル情報ヲ入手シ度ニ付隨時内報アリ度ト謂ヘル處「ネ」ハ出來ル丈御希望ニ添フコトトシ非公式ニ御送付致スヘシト答ヘタリ

三、次次官ヨリ借款問題ニ言及シ米國側カ商業的ニ支那側ニ信用等ヲ設定スルコトハ諒解シ得ルモ今回ノ五千萬弗

借款ノ如キハ國民政府力之ニ依リ「フリー、マネー」ヲ時々入手シ排日ニ利用サルコトナルヘシト日本側ニテハ考ヘ居レリト告ケ借款ノ問題ニ付テモ情報ヲ得度シト述ヘタルニ「ネ」ハ前件ト同様出來得ル限り右様取計フヘシト答ヘタリ

716 昭和8年9月25日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛

福建省での米國諸活動説に關し在福州同國副領事釈明について

公電機密第五三一號 (10月14日接受)

昭和八年九月二十五日

在福州總領事 守屋 和郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

米國福建進出ニ關スル米國領事辯明ノ件

九月十五日當地駐在米國副領事(領事代理) G. J. Burke ハ本官ヲ訪問シ雜談ノ後米國ノ南支方面ニ於ケル軍事上及經濟上ノ活動ニ關シ左ノ如ク談話セリ

米國副領事ハ他用ヲ以テ來訪セルカ如ク裝ヒタルモ其際ノ

件 雜 十

來訪蔣光鼐等ト會談シタル張鳴(胡漢民ノ代表者トシテ北支及上海ニテ活動セル人物)ノ本官ニ洩シタル處ニ依レハ米國領事ニハ直接蔡廷楷^等ト會談スルノ道開ケ居リ隨時折衝シ居ル模様ナリ(張ハ市内ノ噂ナレハ眞實ノ處ハ分明シ難キモ米國領事ト蔡トノ間ニ或種ノ默契アルハ確實ナリ之有ルカ爲ニ蔡モ蔣モ抗日ノ主張ヲ枉ケ日本ト妥協スル腹トハナリ得サルナリト云ヘリ漠然タル話ナルモ御參考迄)本官ハ先般ノ共產軍騷ニ際シ米國領事ノ齎ス情報カ英佛領事ノ夫レヨリモ正確ニシテ又本官ノ情報ヲ尊重スル程度之等領事ニ比シ薄カリシ事ヨリシテ本官ハ米國領事ニ於テハ綏靖公署乃至ハ十九路軍幹部ヨリ比較的信頼スルニ足ル報道ヲ隨時入手シ居ルモノト觀測セル次第ニシテ又本官カ唐突ニ省政府ヲ訪問セル際純商人風ノ米人二三名カ蔣光鼐及外交主任ト鳩首協議シ居リ本官ノ來訪ニ多少狼狽セル様子ヲ目撃セル事アリ米國商人ハ蔣光鼐トモ直接交渉ヲナシ居ル事態ニアリト信セサルヲ得ス之等ノ點ハ輕々シク斷言スル事ヲ得ス更ニ慎重ナル調査ヲ要スル次第ナルニ依リ一ノ疑惑トシテ御了知ヲ願度シ

追ツテ本件ハ直接臺灣軍司令部及馬公要港部ニ報告スル

態度及言葉ヨリ推シ上局ヨリ本官ニ會見シ一應ノ辯明ヲナスヘク命セラレ居タルモノナル事疑ナカリキ

一、漳龍鐵道ニ對シ投資ヲ中國人側ヨリ慫慂セラレタルヲ以テ右ノ次第政府ニ取次キ猶又二三ノ商人ニモ照會シタルモ之ニ對スル返事ハ孰レモ匪賊ノ活動シ居ル地方ニ投資スルハ危險ナリト云フニアリタリ廈門邊ニ居ル華僑スラ二ノ足ヲ踏ミ居ル同鐵道ニ對シ投資ニ米國商人ニ於テ進ンテ參加スルカ如キ事豫期シ得ス

二、米國商人ハ南支ヲ全然商業上ノ市場トシテ取扱ヒ居レリ飛行機ノ賣却モ手持品ヲ賣拂フト云フ商業的考慮以外何物モナシ而シテ彼等ハ全ク現在ノ事ノミ考ヘ將來ニ對スル計畫ノ如キ全然念頭ニナシ

米國副領事ノ談話ハ簡單ニシテ言葉少ナキモノナリシカ本官ハ彼ノ談話ヨリシテ漳龍鐵道ニ對スル投資ノ點ハ目下ノ處米國側ニテ尻込シ居ル事ハ事實ナルヤノ印象ヲ受ケタリ又彼カ飛行機ノ賣込ヲ否定セサルノミカ却ツテ之ヲ肯定シナカラ他ノ武器ノ賣込等ニハ一切言及スルヲ避ケタルハ深キ用心ニ出タルモノト見ルヘシ因ニ米國側ノ十九路軍ニ喰入り居ル程度等ハ容易ニ諜知シ難キモ先般上海ヨリ當地ヲ

ハ如何カト思料シ寫ヲ送付セサルニ付御見込ニ依リ陸海軍ニ然ルヘク御報告アリタシ

本信宛先

公使、南京、北平、廈門、廣東、汕頭

717 昭和8年10月24日 広田外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

漳龍鐵道への米國資本導入説に關し同國國務省に再度注意喚起方訓令

本省 10月24日後4時40分發

第二四八號

一、漳龍鐵道計畫ハ共產軍ノ龍巖地方進出ニ依リ一時停頓ノ姿ナリシモ其ノ後關係者ニ於テハ該計畫ノ實現ニ付種々策動シ居ル模様ナル處福州來信公電機密第五三一號ニ依レハ九月十五日同地米國領事代理 G. J. Burke ハ守屋總領事ヲ來訪シ漳龍鐵道ニ投資方支那人側ヨリ慫慂セラレタルヲ以テ政府ニ取次キ二三ノ商人ニモ照會シタルモ孰レモ匪賊ノ活動シ居ル地方ニ投資スルハ危險ナリトナシ居ル旨ヲ語リタル由(右「バ」ノ話ハ貴電第六四一號ト符

號セサル點アル一方「バ」ノ來訪ハ上局ノ命ニ依リタルモノナルヤニ認メラレタル趣ナルカ或ハ武富參事官申入後現地領事ノ報告接到シ「バ」ニ注意シタル結果來訪セルニハ非サルカト考ヘラル）又廈門來電第二一七號ニ依レハ十月十二日同地米國領事黃奕住ヲ往訪シ二三本國製鐵會社ヨリ送付シ來レル機關車「レール」（古物モアル由）ノ「カタログ」見積書及供給方法ニ關スル書類等ヲ手交シタル上其ノ買入ヲ獎メ且ツ自己ノ友人タル鐵道技師鑛山技師數名アルニ付傭聘ノ意嚮アラハ斡旋スヘキ旨ヲ述ヘタル趣ノ牒報アリ

ニ就テハ此ノ際改メテ國務省側ニ對シ本件ニ言及シ其ノ後現地領事ヨリ報告アリタリヤ等推問スルト共ニ支宛往電第一三四號（合第一四五四號）ノ「ライン」ニ依リ我方カ本件ニ付多大ノ關心ヲ有スルコトヲ響カセ米國側ノ態度ヲ消極化セシムル様御盡力相成度（尙右ト同様ノ趣旨ニテ在支米國公使館側ニ對シ又在福州及廈門米國領事ニ對シ注意喚起方出先ニ訓令シ置キタリ爲念）

紐育、英、佛へ暗送アリ度シ

支、北平、南京、福州、厦門へ轉電セリ

件 十 雜
ヲ往訪ノ序ヲ以テ右ハ閣下宛往電後段ノ通公使館ハ勿論武官室ノ關知セル發表ニハ非サル旨ヲ申入レシメタルニ同公使ハ夫レニテ安心シタル譯ナルカ一體此ノ種ノ情報ハ困リモノナリトテ其ノ出所ヲ質ネタルニ對シ須磨ヨリ勿論不明ナルモ支那側ハ兎角米國ノ援助アルヲ吹聴シテ日本ニ當ラントスルノ風アレハ此等ノ情報中支那側ノ放送ニ係ルモノ案外多キカ知レサル旨ヲ答ヘタル上此ノ好機會ニ福建鐵道ニ關スル米國側活動ニ關シ支宛貴電第一三四號御訓令ノ趣旨ヲ夫レト無ク念ヲ押ス意味合ニテ實ハ日本側トシテハ日支時局ノ現況ニ鑑ミ其ノ出所ノ如何ニ拘ラス此ノ種情報ニ無關心ナルヲ得サル實狀ナルカ

特ニ福建ニ於テハ日本ハ條約上其ノ他緊密ナル利害關係ヲ有スルニ付所謂漳龍鐵道借款情報ノ如キハ我方ノ相當重要視シ居ル次第ヲ述ヘタル處同公使ハ日本側ノ關心ハ成程好

ク了解セラルルモ全然事實無根ナル此ノ種情報ハ兎角兩國間ノ感情ニ極メテ「ハームフル」ナリト思ハルヲ以テ今

後ハオ互ニ極メテ率直ニ此ノ種情報ヲ交換シ合フコト最モ得策ナリト述ヘタル後自分ハ此ノ機會ニ特ニ申上クル次第ナルカ米國側ヨリ鐵道ニ關シ公式ニモ非公式ニモ何等此ノ

718

昭和8年10月28日

在中国有吉公使より
広田外務大臣宛（電報）

福建省での米國諸活動の風説に対する我が方
北平駐在武官室發言に關し米國公使不快感表
明について

付記

十月二十八日着在中国有吉公使より広田外務

大臣宛電報第四五八号

中国における列国の利権獲得活動を非難した

北平駐在武官室發言に關する報道について

北平

10月28日後発

本省

10月29日前着

第四五九號（極秘）

往電第四五八號ニ關シ

廿七日米國公使ヨリ本使宛書翰ヲ以テ冒頭往電ノ所謂陸軍室發表中米國カ支那トノ間ニ航空密約航空借款殊ニ福建鐵道借款等ヲ有スト爲ス部分ハ全然架空ノ事柄ニシテヨモヤ日本官憲側ノ消息トハ思ハサルモ右ノ如キハ日米兩國間ニ「イルフイーリング」ヲ生セシムル以外何等役立たサタルヲ遺憾トスル旨申越ノ次第アリタルニ付同日須磨カ同公使

種借款行ハレタルコトヲ聞キタルコト無ク從テ全然虛報ナリ又航空條約ノ如キハ一片ノ風説ナルコトヲ確言スルニ憚ラス尙中國航空公司カ「カーチス」會社ト關係アルコトハ公知ノ事實ナルモ之亦米國政府トハ何等ノ關係ナシ要スルニ今同ノ消息カ公使館側ヨリ出テタルモノニ非サルコトヲ聞クコトハ愉快ナリト釋然タル模様ナリシ趣ナリ尙廿八日「フイツシャー」參事官（獨逸公使南下中）須磨ヲ來訪シ本件聲明ニ言及シ獨逸カ支那ニ「アウトレット」ヲ見出ス爲今後共種々活動スヘキハ當然ナル可キカ之ヲ一々支那ニ對スル援助ト解セラレサル様希望ニ堪ヘスト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ米國公使ニ對スルト同様應酬シ置キタル趣ナリ支、南京、厦門、福州、天津、滿へ轉電セリ支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

（付記）

北平

発

本省

10月28日後着

第四五八號

廿六日當地邦字新聞ニ陸軍武官室發言人公表トシテ「抗日

ト他力本願トノ相乗政策ヲ排撃ス列國又皇道日本ノ力ヲ知レ」ノ題下ニ現在支那ハ國土ノ解体作用ト列國ノ利權爭奪戰トノ爲大ナル危險ニ瀕スト冒頭シ邊境地方ト共產地區ニ於ケル解体作用ノ狀況ヲ敘シ「リットン」報告後列國ハ對支利權ノ擴張更ニアハ好クハ支那ヲ植民地分割ニ導カントスル野望ヲ有スルニ至レリトシテ目下ノ英米獨佛等ノ利權獲得狀況ヲ述ヘ日本無カリセハ東洋殊ニ支那ハ既ニ分割ノ浮目ニ會ヒタルナルヘシト説ケル記事掲載セラレタル處右ハ支那紙ニ譯載セラレ又「ロイター」ヲ通シ翌日ノ北平「クロニクル」京津「タイムス」等英字新聞ニモ其ノ全譯載セラレタリ

該記事ハ柴山武官ノ不在中(目下滿洲國旅行中)ニ發表セラレタル次第ナルカ内外通信員ヨリノ問合セニ對シテ係官ハ武官室「スポークスマン」トシテノ發言ニ非ス武官室一員ノ「プライベイト、オブザーベーション」ナリトシテ應酬シ置ケル趣ナリ

支、南京、天津、福州、厦門、滿ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

719

昭和8年10月31日

在米國出淵大使より
広田外務大臣宛(電報)

福建省での鉄道投資説への我が方注意喚起に
對し商業上の問題であり米國政府の関与はな
い旨同國國務省極東部長回答について

ワシントン 10月31日後発

本 省 11月1日前着

第七七七號

貴電第二四八號ニ關シ

卅日武富他用ニテ「ホンベック」ニ面會ノ節往電第六四一號會談ハ記憶セラルルヤト尋ネタルニ同人ハ好ク記憶シ居レリト答ヘタルニ付武富ヨリ冒頭貴電中ノ厦門ヨリノ諜報ニモ輕ク觸レタル後尙在福州米國領事ハ守屋總領事ニ對シ支那人側ヨリ漳龍鐵道ニ投資方懸憑セラレタルヲ以テ政府ニ照會セリト語レル旨ノ報告ニモ接シ居レリト述ヘタル處「ホ」ハ掛官ニ問合セタル上成程斯ル種類ノ商業上ノ照會ハ二三件アル様ナルモ右ハ全ク「ビジネス」ノ問題ニテ何等政治的意味アル次第第二非ス又現地領事トシテハ商業上ノ問合セアラハ政府ニ照會スルコトアル可キモ之ヲ以テ米國

政府カ同地方ニ何等關心ヲ有スル如ク疑ハルハ當ラスト答ヘタリ依テ武富ヨリ最近同地方ニ於ケル米國海軍根據地設置ノ噂カ漸次下火トナリ來レルハ同慶ニ感スル所ナルカ漳龍鐵道關係ノ風説ノ報ハ依然トシテ傳ヘラルル故爲念御尋ネスル次第ナリトテ我方ノ關心ヲ引證スルニ努メタルカ「ホ」ハ米國側カ同地方ニ野心ヲ有スルカ如キコトアル可キ譯無シトテ從來ト同様之ヲ問題視セサル態度ヲ示セル趣ナリ(以上發表セサル様致度シ)

紐育、英、佛ヘ暗送セリ

720

昭和8年12月9日

在ニュー・ヨーク堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

米國カーチス・ライト社と中國政府との間に
杭州に航空機製造工場設立に関する契約成立
との新聞報道について

ニュー・ヨーク 12月9日後発

本 省 12月10日前着

第二八九號

十二月八日上海發「アーベンド」特電ハ「カーチス、ライ

ト」飛行機會社ハ支那政府ト契約ヲ締結シ五百萬弗ヲ投資シテ杭州ニ飛行機製造工場ヲ設立スル事トナレル趣確聞シタルカ支那政府ハ毎年六十機ヲ他ニ賣却スルカ又ハ自ラ之ヲ購入スルノ義務ヲ負フ由ニテ又右工場ヲ設立ノ上ハ發動機ノミヲ外國ヨリ輸入スル事トナルヘシト報シ右ニ關シ同日ノ「タイムス」紙ハ同會社社長「モルガン」カ本件契約調印ヲ肯定スルト共ニ詳細ハ尙不明ナル旨並ニ右工場建設ハ實質上支那政府トノ共同事業ナル旨語レリト附記セリ右ニ關シ同日三菱商事ノ風間ヨリ「カーチス、ライト」輸出會社ノ幹部ニ問合セタル處前記「タイムス」所報「モルガン」ノ談ナルモノノ正確ナルヲ認メ尙(一)右工場ノ建設ニハ「カ」社ヨリ投資スル外支那側ヨリモ多少出資スルモノナルヤノ口吻ヲ洩シ又(二)幾年カノ後ニハ支那政府ニ同工場ヲ引渡スモノナル事(三)同工場ハ單ニ材料組立ニ留マラス飛行機全体ノ製作ヲ行ヒ發動機ノミ米國ヨリ輸入スルモノナル事(四)工場ノ作業ハ何時頃開始スヘキヤ未定ナル事等ヲ語レル趣ナリ英、米、支ヘ轉電セリ
英ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリタシ

721 昭和8年12月12日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

カーチス社航空機製造工場設立計画の成行き
に關しアーベンドの内話について

上海 12月12日後発
本省 12月12日後着

第七四〇號

紐育發閣下宛電報第二八九號ニ關シ

十一日「アーベンド」ノ須磨ニ對スル談話要領左ノ通(出所
極秘)

「カーチス」會社飛行機工場設計計畫ハ相當確實ナル筋ヨ
リ探知シタルモノニテ同會社ノ代表者 Pawley(Inter Con-
tinental Air Navigation Corporation 代表ト稱シ居ル由)
ハ二ヶ月前來滬陳公博トノ間二十數回ノ會談ヲ遂ケ原案ハ

既ニ大体成立セルモ唯契約期間ニ關シ「カーチス」側ハ二
十年ヲ主張シ支那側ハ之ヲ可成短縮セント希望シ居ル爲未
タ調印ノ運ニ至ラス本件契約締結ノ動機ハ米國側ニ於テ英、

伊兩國ノ對支飛行機廉賣ニ對抗セントスルモノナルカ支那
側カ果シテ毎年六十臺ノ飛行機ヲ賣リ捌キ得ルヤ又發動機
以外ノ諸經費ニ(發動機ノ購入費ハ飛行機賣上代金ヨリ支
拂フコトトナリ居ル由)果シテ五百萬金弗ノ如キ大金ヲ必
要トスルヤ否ヤ疑問ニテ右金額ハ結局中國航空公司同様米
國ノ支那航空カ行政派ニ流用セラルルモノト察セラル
尙十一日米國商務官「アーノルド」ハ須磨ノ質問ニ對シ本
件ヲ全然否認シ居タル趣ナリ
南京、北平へ轉電セリ

4 宋子文の日本寄港問題

722 昭和8年8月17日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

米國より帰国途次の宋子文本邦寄港を利用して本
邦朝野有力者との会談設定方曹汝霖勸告について

上海 8月17日後発
本省 8月17日後着

第四六七號(至急、極秘)

數日前廬山ヨリ歸來セル曹汝霖ハ十五日船津ニ對シ

一、廬山滞在中蔣介石ニ數回面會シ日支問題討議意見ヲ交換
シタルカ大體ニ於テ蔣ハ日支關係ノ轉換ヲ希望シ居ルモ
ノナル事觀取セラレタリ

二、近ク歸國スヘキ宋子文ハ其地位及實力等ヨリ見テ之ヲ政
界ヨリ排除スルハ今ノ所不可能ノ事ニテ歸國後ハ相當活
動スヘキモノトノ印象ヲ得タレハ宋ヲシテ日本ヲ正解セ
シムル様仕向クル事日本ニ取リテモ至極得策ナリト思考
セラル次第ナルカ此ノ際日本側ニ於テ從來ノ行懸ヲ棄テ
宋カ歸國ノ途次日本ニ寄港スルヲ幸ヒ其機會ニ日本側ニ

於テ宋ノ地位ニ對シ相當ノ待遇ヲ與フル事トモナラハ一

週間位日本ニ滞在セシメ朝野ノ名士ト接觸セシムル事ト
セハ日支將來ノ爲極メテ好都合ナルヘシ就テハ右實現ハ
相當困難トハ思考スルモ自分(曹)ハ早速錢永銘邊ヲ南京
ニ派シ此ノ計畫實現ニ對シ南京側ノ空氣ヲ確ムル様手配
スヘシトテ本使ニモ右私案傳達方申出タル趣ナリ

就テハ右二ノ點ニ關シ船津等ヲシテ何分ノ意向ヲ内示セシ
メ度キニ付政府ノ御意見至急御電示相成度シ
北平、南京、滿へ轉電セリ

723 昭和8年8月19日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

宋子文本邦寄港に際する上陸滞在实际のための蔣
介石への働きかけに關する曹汝霖談話について

上海 8月19日後発
本省 8月19日後着

第四七〇號

往電第四六七號ニ關シ

十八日曹汝霖有野ヲ來訪シ前年船津ニ對スルト略同様ノコ